

学校経営の改善、情報提供のあり方

1 事業の実施報告

(1) 事業研究のねらい

ア ねらい

- ・ 学校経営及び教育活動の適正かつ向上を図るため、学校運営及び教育活動に対して、自己評価、学校関係者評価、第三者評価、教育委員会評価を行い、教育活動の改善に生かす評価のあり方、学校運営及び教育活動や学校運営の充実と改善のための評価実践研究をする。
- ・ 学校評価シンポジウムを開催し、学校評価事業の取組とその成果を広く保護者や地域の方、市内外関係者へ報告・発表する場とし、これまでの取組・活動をまとめ、振り返り、今後更なる学校評価の充実とその発展を図る実践研究をする。

イ 取組内容

- ・ 有識者、各学校代表からなる高浜市学校評価検討委員会を組織、各校の学校評価事業の計画作成、連絡・調整、取組状況の報告、その検討などを行い評価事業を推進する。
- ・ 教職員の自己評価、保護者など外部評価アンケートを実施し、その評価項目と評価方法など改善と充実を図る。
- ・ 学校関係者評価の実施方法を検証し、教育活動・学校運営の充実と発展を図る。
- ・ 第三者評価の取組、その評価方法、評価項目・視点等の研究実践を行い、第三者評価による教育活動・学校運営の改善と充実を図る。
- ・ 広く保護者や地域の方、市内外関係者への参加を募り、「学校評価シンポジウム」を開催し、学校評価事業の取組とその成果を報告・発表し、これまでの取組、活動をまとめ振り返り、更なる学校評価の充実とその発展を図る。
- ・ 有識者を学校評価事業の指導講師として迎え、高浜市学校評価検討委員会や各校の自己評価、学校関係者の充実と改善を図るための指導と研修を行い、教職員・評価委員の資質の向上に努め、学校評価事業を充実させる。
- ・ 有識者を学校評価事業の指導講師として迎え、「元気になる学校づくり講座」を開催し、学校評価の取組について共通認識と意識の高揚を図る。
- ・ 自己評価、学校関係者評価、第三者評価の各結果を総括し、その評価を総合的に学校教育及び学校運営に生かしその充実を図る。
- ・ 有識者を学校評価事業の指導者として、各校に入り込み指導訪問をして、教育活動・学校運営など指導・助言をうけ、学校評価事業の改善と充実を図る。
- ・ 学校評価事業をふまえた取組、実践内容など保護者・学区及び内外の地域住民に広報し、各校の取組に対する評価を得るとともに学校評価の普及と充実を図る。

(2) 実践研究の実施状況

ア 学校評価シンポジウム

a 準備委員会の開催

- ・ 第1回 4月14日（水）開催案の検討・シンポ当日までの流れ・開催案内提案

- ・ 第2回 5月26日(水) 報告内容検討・要項プロット提案
- ・ 第3回 6月30日(水) シンポ進行案検討・部会進行案検討・報告原稿検討
- ・ 第4回 7月 3日(土) P T Aとの連絡調整・参加者集約・パネル完成
- ・ 第5回 8月 2日(月) 進行・準備等確認・要項印刷製本
- ・ 第6回 8月20日(金) リハーサル・会場準備
- ・ 当日 8月21日(土)

b シンポジウムの内容

- ・ 開会行事

高浜市立南中学校吹奏楽部の演奏・高浜市教育長あいさつ・高浜市長あいさつ

- ・ パネルディスカッション

テーマ「学校づくりを軸にしたまちづくり」

コーディネーター 名古屋大学准教授 南部初世氏

パネラー 野村総研主任研究員 妹尾昌俊氏

保護者・地域代表 竹内一仁氏

教員代表 小嶋俊明氏

8年前に学校評価を取り入れた背景や、現在までに市内の学校が取り組んできた内容を明らかにし、今後地域・保護者が学校に入り込んで、高浜のまちづくりにどうつなげていくかを考える機会となった。

- ・ 分科会

第1分科会(育てる) テーマ「知徳体のバランスがとれた子どもを育成するために」

助言者 プロコーチ 曾余田順子氏

第2分科会(つなぐ) テーマ「子どもの健全育成のために、学校・家庭・地域の関係を見直す」

助言者 金城学院大学教授 原 史子氏

第3分科会(かえる) テーマ「高浜市の小中学校は何をかえてきたか」

助言者 名古屋大学准教授 南部初世氏

- ・ 分科会報告

各分科会での内容を全体会場で報告し、共有した。

- ・ 記念講演

演題「学校づくりとまちづくりの一体化」－高浜市学校評価の到達点と今後の課題－

講師 名城大学大学院 大学・学校づくり研究科長 木岡一明氏

- ・ 閉会行事

お礼のことば 実行委員長 星野芳徳氏

c シンポジウム報告書

報告書を、各市町教育委員会・小中学校・まちづくり協議会・公民館等に配布。

イ 第三者評価委員会

a 概要

学校評価は今までと比べると進み、地域協働的な学校づくりの形ができつつある。しかし進度には学校間でばらつきがある。地域との協働、高浜を愛し高浜で生きる市民の育成。小中一貫教育を保障できる社会施設の見直し、若い教師の力量向上のための研修シ

システムを総合的に推進していくための教育委員会の新しい取り組み。第三者評価として、各校を訪問し、入り込み指導をするのではなく、七校を集めてヒアリングをするという形で評価する。校長・教頭より学校が今抱えている状況に対してどう取り組んでいるかお互いに共有する。第三者評価者の最終的なまとめを学校評価検討委員会に出す。

b 評価委員

学識経験者 4 名・市民（公募） 1 名 合計 4 名

c 実施状況

第 1 回第三者評価委員会 5 月 26 日（水） 9 : 0 0 ~ 1 5 : 2 5

- ・ 各校の学校経営に対する評価委員の校長ヒアリング
- ・ 次回までの課題の提示
 - ① 小中学校の連携をとる
 - ② 小学校は幼稚園・保育園との連携、中学校は高浜高校・日福大との連携をはかる。
 - ③ いろいろな学校の良いところを吸収する。
- ・ 評価委員会（午後）

評価委員会の考え方

学校が自らを高めていく時の直線的な評価は自己評価である。また地域がどう係わるかが加わると関係者評価で、自浄能力を高める。各学校が今何を考えていてどう方向性を示すかを校長等よりヒアリングすることで実態を把握する。日々の教育課題は多くある。校長のパートナーシップは大事だが、四役の動きも大切。そのため、教頭・教務・校務の関係作りが最も大切である。「高浜を愛し、高浜で生きる市民の育成」スモールスケールメリットを生かし、まちづくりと学校づくりを一体化する。「育てる」「つなぐ」「かえる」教育基本構想の3部会で、小中一貫校を土台に地域協働型の構想を創り上げていく。教育関係の協働化、教育内容の体系化、教育環境の構造化。第三者評価ではこれらの各校の取り組みをヒアリングしていく。この方向性に沿った取り組みの中で、どんな成果や共通課題を見出しているか

第 2 回第三者評価委員会 1 0 月 2 6 日（火） 9 : 0 0 ~ 1 5 : 0 0

- ・ 各校の学校経営に対する教務主任ヒアリング
- ・ 次回までの課題の提示
 - ① 地域との具体的ななかかわり
 - ② 年度末に向けてどう収束していくか。
- ・ 評価委員会（午後）

各校の自己評価システムをどう確立するか。モデル校を中心に、各校評価シートの形式を揃える作業が必要である。また、自己評価に関して目標の系統性の確保が薄い。目的と手段の連鎖をつける。

第 3 回第三者評価委員会 2 月 1 6 日（水） 9 : 0 0 ~ 1 5 : 4 0

- ・ 各校の学校経営に対する教頭ヒアリング
- ・ 次年度までの課題の提示
 - ① 目標の系統化をシートに落とす。
 - ② 成果指標を入れる。前段が取組指標、後段が成果指標

③翼モデルの図を各校で検討する。

④来年度第1回は学校経営方針を中心にヒアリングする。モデル図と戦略に重点を置く。

・ 評価委員会（午後）

公開授業の取り組みは質が問題。授業公開に関しては、次のステージを示すことが教育委員会として必要である。どんな授業を目指し、何を求めていくか。参観するに当たって参観シートを市でそろえると良い。

管理職のプレゼンテーション能力の重要性が指摘できる。プレゼンの工夫が求められる。

第4回第三者評価委員会 3月7日（月）13：30～17：15

1年間のまとめを評価委員5名で総括する。「高浜市立小学校・中学校第三者評価報告書」を作成する。内容は、1はじめに、2総論、（1）四役間の役割分担と機動的な関係形成（2）目標の重点化・系統化（3）地域協働の推進（4）プレゼンテーション能力の向上（5）おわりに、3各論（1）高浜小学校（2）吉浜小学校（3）高取小学校（4）港小学校（5）翼小学校（6）高浜中学校（7）南中学校、4第三者評価委員会の各回のまとめ

ウ 学校評価検討委員会

第1回学校評価検討委員会 5月14日（金）委員は各校の教頭

- ・各校の22年度の学校評価事業の取組みについて

第2回学校評価検討委員会 11月15日（月）

- ・第三者評価委員会の指導をうけて

前期の取組と更新策

第三者評価等での指導内容

指導後の学校の取組内容

- ・名古屋大学南部初世准教授の指導

各学校ともフレームワークの横・縦の関係の検討

第三者評価で見直すことの確認

第3回学校評価検討委員会 3月10日（木）

第三者評価委員会報告書の確認（各校校長対象）

エ 元気がでる授業作り講座

8月25日（水）

講師 名城大学教授 木岡一明氏

受講者 各校4役・中堅教員・3年目教員

内容 演習「高浜のよさは」

8月26日（木）

講師・受講者は同上

内容 演習「総合的な学習を高浜でどう展開するか」

オ 学校づくり入り込み指導

入り込み分担

木岡一明氏 市内7校全校

随時入り込み

南部初世氏 高浜小学校・高取小学校・港小学校・南中学校

6月15日(火)高浜小学校 6月29日(火)高取小学校 7月15日(木)港小学校・南中学校 7月27日(火)高取小学校 等

曾余田順子氏 吉浜小学校・翼小学校・高浜中学校

7月6日(火)翼小学校・高浜中学校 7月7日(水)吉浜小学校・翼小学校

10月22日(金)翼小学校・吉浜小学校 10月25日(月)高浜中学校

1月24日(月)翼小学校 1月25日(火)吉浜小学校・高浜中学校

カ 教育委員会評価

教育行政事務の管理執行状況について自己点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともにホームページで公表する。点検評価の対象は、平成22年度高浜市教育行政方針で示し取り組んだ項目における主要施策・事業とする。教育委員会の自己評価に対して、学識経験者より評価をいただく。

2 実践研究の成果

(1) 学校評価シンポジウム

高浜市の学校評価事業の取組とその成果を広く保護者や地域の方、市内外関係者へ報告・発表する場となった。当日は1日日程で実施したが、約500名の参加をいただいた。これまでの取組・活動をまとめ、振り返り、今後更なる学校評価の充実とその発展を図る実践研究となった。

(2) 第三者評価委員会

学校評価に関する本年度からの新しい取組である。学校現場への入り込み指導を行わずに、各校の校長・教頭・教務主任に対するヒアリングを中心に委員会を実施した。午前中は各校ヒアリング、午後は評価委員のみの会議とした。各校の取組を7校が共有することにより、今まで遅れ気味であった学校が新しい取組を取り入れることにより、7校が高いレベルに揃いつつある。第4回の評価委員会にて、「評価報告書」を作成し、教育長宛に提出した。

(3) 学校評価検討委員会

第三者評価を受けての検討委員会という位置づけで実施した。第1回目は、シンポジウムの進捗状況と元気が出る学校づくり講座、評価委員の各校への入り込み指導の日程調整等も同時に実施した。1年間の動きを確認することができた。第2回は、第三者評価委員会を受けて、学校の後期の取組を中心に検討することができ、学校の活性化につながっている。

(4) 元気が出る授業づくり講座

2日間にわたる講座は、中堅教員・若年教員に対しては有意義な講座となった。現在作成中の高浜市教育基本構想の高浜カリキュラム作成のスタートラインとなる総合的な学習の時間のカリキュラム作成につながる講座となった。この講座を通して、中堅教員・若手教員に対して学校評価の取組について共通認識と意識の向上を図ることができた。

(5) 教育委員会評価

教育委員会の自己評価に対して、点検評価の客観性を確保するため、学識経験者の意見を取り入れた。学校経営等に関して、厳しい指摘を受けることにより、より充実した経営が期待できる。

3 今後の取組予定

来年度も引き続き、第三者評価委員会・学校評価検討委員会・元気がでる授業づくり講座を実施する。高浜市全体の教育の資質向上に貢献し、来年度完成予定の高浜市教育基本構想の実現に向けての市民協働が高まっていくことをねらいとしていく。

○「学校評価」を軸とした学校づくり —高浜市小中学校のこれまでとこれから— (高浜市学校評価シンポジウム記録)

はじめに

開会行事

パネルディスカッション

テーマ「学校づくりを軸としたまちづくり」

コーディネーター 名古屋大学准教授 南部初世 氏

パネラー 野村総合研究所 主任研究員 妹尾昌俊 氏
翼小飛翔の会長、翼まち協代表者 竹内一仁 氏
高浜中学生徒指導主事 小嶋俊明 氏

第1分科会（育てる）

テーマ「知・徳・体のバランスがとれた子どもを育成するために」

助言者 プロ・コーチ 曾余田順子 氏

第2分科会（つなげる）

テーマ「子どもの健全育成のために、学校・家庭・地域の関係を見直す」

助言者 金城学院大学教授 原 史子 氏

第3分科会（かえる）

テーマ「高浜市の小中学校は何をかえてきたか」

助言者 名古屋大学准教授 南部初世 氏

記念講演 「学校づくりとまちづくりの一体化」

—高浜市学校評価の到達点と今後の課題—

講師 名城大学大学院 大学・学校づくり研究科長 木岡一明 氏

記念講演パワーポイント資料

おわりに

